

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
横浜システム工学院専門学校	平成4年8月11日	杉山 勝巳	〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人YSE学園	平成4年8月11日	杉山 勝巳	〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881				
目的	本学科では、組込みソフトウェアを中心に、ハード・ソフト系の仕事を通して成長していける基本的な社会人基礎力と実践的かつ専門的な技術力を持った人材を育成する。そのためにアクティブラーニングやプロジェクトベースラーニングなどを取り入れて、明確で具体的な目標のもとにチーム作業を進めることで、在学中に、プロジェクト管理・スケジュール管理・情報共有・コミュニケーション・プレゼンテーションなどの様々な力を養い、企業へ入社後、仕事を通して主体的に成長していけるたくましく伸びしろのある人材となる学生を育成する。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	モバイル・ロボット科 (ロボット・組込みソフトコース)	平成23年 文部科学大臣告示第167号	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2,160	342	378	480	480	480
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
50人	18人	3人	1人	4人			
学期制度	■1学期:4月4日～6月10日 ■2学期:6月13日～9月9日 ■3学期:9月12日～11月18日 ■4学期:11月21日～2月10日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 SABCDの5段階評価 評点(100点満点、60点未満不可) 出席状況・課題への取り組み・達成結果・試験の結果を総合的に判断する。			
長期休み	■学年始:4月1日～4月3日 ■夏季:8月1日～8月19日 ■冬季:12月26日～1月6日 ■学年末:3月27日～3月31日		卒業・進級条件	卒業要件:2160単位時間履修し、「卒業研究a」、「卒業研究b」、「卒業研究c」を含む1,700単位時間以上の授業科目に合格すること。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 課題や近況報告をメールや電話でやりとりし、保護者と連携して、無理のない範囲でスクーリングさせながら様子を見る。授業とは別に特別メニューを個別に用意して指導する。		課外活動	■課外活動の種類 ロボットコンテスト出場:全国専門学校情報教育協会主催ロボット競技会 ■サークル活動: 無			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 ICT系、ET系のソフト開発、システム運用、インフラ構築ものづくり系の設計製造 ■就職率 ^{※1} : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100 % ■その他 (平成27年度卒業者に 平成28年5月1日時点の情報)		主な資格・検定等	情報検定情報活用試験 C言語プログラミング能力認定 ITパスポート			
中途退学の現状	■中途退学者 0名 平成27年4月1日時点において、在学者19名(平成27年4月1日入学者を含む) 平成28年3月31日時点において、在学者19名(平成28年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止のための取組 学生が孤立しないように教員が積極的にコミュニケーションづくりを働きかけている。出席状況や授業態度や興味関心意欲などは平素から担任が把握し、MR科に関わる教員間(常勤・非常勤含めて)で情報交換している。おかしな様子が見られるときには早め早めに本人やクラスメイトに働きかける。それでも改善が見られないときには、保護者に連絡を取り家庭での指導との連携を心がけている。出席面や学習面で合わない学生が出た場合には、別メニューで個別フォローをし、資格取得や作品作りで実績を作って自信を持たせるようにしている。		■中退率 0 %				
ホームページ	http://www.vse.ac.jp/						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保して、職業実践的かつ専門的な能力を持つ人材を育成するため、特に職業に関連した企業、関係施設、業界団体等との密接な連携を通じ、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組むことを目的とする。

1) 教育課程の編成に関すること

① 企業等からも委員を募り、委員の意見を反映して、授業科目等の教育課程の編成、授業方法や成績評価方法の改善・工夫などを協議する。

2) 教育の実践に関すること

① 企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保し、演習・実習等を実施できるよう協議する。

② 新鮮な実践的教材により、活きた育てる実践的な教育を実施できるよう協議する。

③ 企業内実習、コラボレーション、インターンシップ等、企業との関わりを増やし、学生が企業の現場を知り、学んでいることがどう活かせるかを知ることにより、職業理解を深めると共に、安心して学業に取り組める環境を構築し、学業意欲の向上を図れるように協議する。

④ 経験豊富な企業人講師による特別授業を適時行えるように講師選びを協議する。

⑤ 企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるよう協議する。

⑥ 企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育を推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるよう協議する。

⑦ 楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活きた課題に取り組みながら、自信と自主性を育てられるよう協議する。

⑧ YSEフェスタや卒業制作発表会などの学校行事に向けては、企業等の声を取り入れて、グループで実践的な活きた作品作りに取り組めるよう協議する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

(1)の基本方針のもとに、教育実践に関する①—⑧の項目について協議するために、教育課程編成委員会で協議する。学科で編纂した教育課程・授業内容・授業方法に関して、専門分野ならびに就業後の実務や職業人としての立場から意見をいただき、その内容を教育にフィードバックする。また、該当年度の実施状況の報告にもとづく見直しへの提案やアドバイスをいただき、次年度のカリキュラムに反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会副委員長	平成25年10月1日～平成29年3月31日	①
田村 孝章	株式会社アド マネジャー	平成25年10月1日～成29年9月30日	③
藤原 美香	イースタン電波工業株式会社 代表取締役専務	平成25年10月1日～平成29年9月30日	③
前山 浩志	デジタルコム株式会社 代表取締役社長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	③
杉山 勝巳	横浜システム工学院専門学校 理事長 学院長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	学校委員
仲久保 正人	横浜システム工学院専門学校 理事・教頭	平成25年10月1日～平成29年9月30日	学校委員

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

② 学会や学術機関等の有識者

③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

毎年2回実施する

(開催日時)

平成28年度

第1回 平成28年6月29日 16:30～18:30

第2回 平成28年9月26日 16:30～18:30

平成27年度は下記2回開催

第1回 平成27年6月23日 16:30～18:30

第2回 平成27年9月16日 16:30～18:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

平成27年度の教育課程編成委員会では、ロボコンを中心とした取り組みだけでは、技術進歩に広がりや奥行きが出てこないで、現状の成果を維持しつつ、新技術を取り込んでいくことが、学校側の課題としてあがった。それに対して、企業でも同様な課題があり、現状の仕事をこなしつつ、新分野・新技術を勉強して取り込んでいかないと新しいことが出来なくなるとのご意見があり、この観点から、カリキュラムと卒業研究課題・内容を見直すことにし、また研修についても検討することになった。カリキュラムについては、素案が出来た段階で、企業に提示して、アドバイスをもらうことにした。社員研修については、新人教育の部分をYSEで行えるか検討することになった。

その結果、平成29年度のカリキュラムは大幅に刷新し、平成28年度はロボコンは極力減らして、新技術や新分野への対応をすることになった。平成28年度はコミュニケーションロボットPepperのアプリケーション開発を、卒業研究テーマとして、企業との共同開発を行うことで、学生、教員、社員相互の新技術の修得と研修効果を上げるべく、また、ビジネス展開をすることも考えて、取り組んでいる。社員研修もYSEでIT系新入社員研修を実施した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

教育連携協定書の以下の項目

②新鮮な実践的教材により、活かす育てる実践的な教育を実施できるようにする。

⑤企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるようにする。

⑥企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育を推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるようにする。

⑦楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活かした課題に取り組みながら、自信と自主性を育てられるようにする。

以上の実践に当たっては、学生が学ぶこと、経験することを、実践的職業体験に昇華させて技術や知識を自分のモノにさせる。そのために、課題挑戦型プロジェクト教育という手法を使って、チームでの作品作りを中心に、実習・演習を行い、プレゼンテーションで締めくくるようにしている。

1年次のキャリアデザインと2年次の卒業研究とは、企業の方の講演・実習・演習・指導や職場見学を取り入れて、最新業界動向と最新技術動向に触れさせ、具体的な研究テーマの掘り下げを行っている。

実習終了時には、企業担当者による学修成果の評価を踏まえ、授業科目の担当教員とクラス担任が学修成果の評価・単位認定を行った。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

1年次のキャリアデザイン

自分のキャリアデザインを、実際に現場で仕事をしている方を指導員として仕事の全体像や、個々の仕事の説明を受け、課題制作を通して考える。キャリアをデザインする中で自分の専門学校での学びを位置づけて就業意識を高める。実習終了時には、企業担当者による学修成果の評価を踏まえ、授業科目の担当教員とクラス担任が学修成果の評価・単位認定を行う。

2年次の卒業研究

現在話題になっている技術や今後話題になる技術について、実際に現場で仕事をしている方を指導員として講演・実習・演習等の指導や職場見学を取り入れて、最新業界動向と最新技術動向に触れさせ、具体的な研究テーマを決めて掘り下げた。実習終了時には、企業担当者による学修成果の評価を踏まえ、授業科目の担当教員とクラス担任が学修成果の評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
キャリアデザイン I d	ICT系企業の仕事内容について実践的に学ぶ。業界の俯瞰、個々の仕事の現場の様子などの一連の話と、アプリケーションの企画立案からプレゼンテーションまでを、一通り体験する。	株式会社エスアイイー KIA
卒業研究a	最先端のICT、ET、M2M、IoTなどの技術や、開発手法、業界動向などについて広く俯瞰しながら、具体的なテーマを見つけて掘り下げて、作品制作を通して具体的に研究し学ぶ。	デジタルコム株式会社 イースタン電波工業株式会社
卒業研究b	卒業研究aで見つけた具体的なテーマを掘り下げて、作品制作を通して具体的に研究し学ぶ。企業から仕様書を提示してもらい、設計から実装テストまで学生が一通り開発工程を行う。	デジタルコム株式会社 イースタン電波工業株式会社
卒業研究c	卒業研究bで開発・制作したIoTシステム作品を実際に使ってもらい評価を受け、必要な改良や改善を行った結果を、発表会でプレゼンテーションし、展示会で実演する。	デジタルコム株式会社 イースタン電波工業株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員研修規則 第2条(研修の基本方針)

教員に必要な専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修・研究、並びに、専攻分野における授業及び学生に対する指導力を修得・向上するための研修・研究を目的として、企業等との連携のもと、組織的な研修の機会を設ける。

に基づき、研修に当たっては、職務の一環として参加している。

情報システム／組み込みシステム系の技術に関しては進展の速度が速く、常に最新の技術動向を学習することが求められているため、本学科の担当教員については技術研修を重視し、積極的に研修に参加させている。

また、企業現場での実績を重視した教員採用を行っているが、学生の指導に関しては専門学校で学生を指導するための技術が必要であり、指導技術についても積極的に参加させている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

1) 実践型C言語指導者層向け研修会

主催者：一般社団法人 組み込みシステム技術協会

講師：坂上真市氏（日本システム開発(株) 部長） 西方彩乃氏（日本システム開発(株)）

内容：組み込み系C言語実装と単体テスト

受講者：中村 恭太

期間：平成27年8月27日(木)、28日(金)

2) 情報系専門学校と神奈川県情報サービス産業協会(神情協)情報交換会

主催者：(社)神奈川県情報サービス産業協会

講師：(社)神奈川県情報サービス産業協会会員企業社員

内容：神奈川県の情報サービス産業協会会員企業との業界情報・就職採用情報・人材育成情報などの交換

受講者：仲久保正人、知野朱穂

期間：平成27年9月30日(水)

3) 情報処理学会組み込みシステム研究会ESS2015組み込みシステムシンポジウム

主催者：(一社)情報処理学会組み込みシステム研究会

講師：(一社)情報処理学会組み込みシステム研究会会員

内容：スマートモバイルロボットシステム製作と出展ならびに専門分野情報の調査研究

受講者：仲久保正人、中村恭太、中原大介

期間：平成27年10月21日(水)、22日(木)、23日(金)

4) IoT/ET2015組み込み総合技術展

主催者：(一社)組み込みシステム技術協会

講師：IoT/ET2015組み込み総合技術展参加企業社員

内容：IoT/ETシステム作品制作と出展ならびに最新技術動向の調査研究

受講者：仲久保正人、中村恭太、中原大介

期間：平成27年11月18日(水)、19日(木)、20日(金)

② 指導力の修得・向上のための研修等

1) ゼミ学習のためのファシリテーション研修

主催者：横浜システム工学院専門学校教育指導室

外部講師：株式会社ウチダ人材開発センター 鏡貴絵

内容：「教える技術」の強化を目指し、質の高い講座を提供するために必要なファシリテーションスキル研修

受講者：仲久保正人、中村恭太、中原大介、他YSE専任教員

期間：平成27年3月17日(火)、18日(水)

2) 教員研修：担任力強化・指導力強化

主催者：横浜システム工学院専門学校教育指導室

外部講師：神奈川県立大和西高等学校キャリアガイダンスグループ飯沼氏

内容：高等学校の教育現場の現状と学生に対する指導方法、専門学校教員の指導力について学ぶ研修。

受講者：仲久保正人、中村恭太、中原大介、他YSE専任教員

期間：平成27年8月3日(月)

3) ファシリテーションスキル養成(中級)教育力向上研修会

主催者：INVITE(全国専門学校情報教育協会)

講師：宮口直人様(株式会社ウチダ人材開発センター講師)

内容：学生の主体性と自発的思考力を伸ばす授業運営スキルの養成

受講者：中原大介、中村恭太

期間：平成27年8月6日(木)、7日(金)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

1) コミュニケーションロボットPepperアプリケーション開発について

主催者: ソフトバンクグループ(株)
講師: ソフトバンクグループ(株)社員
内容: 概要セミナー、筆記試験、実技試験
受講者: 仲久保正人、中村恭太
期間: 平成28年2/29、3/31、4/6、5/23、6/20、7/19、8/16

2) コミュニケーションロボットPepperを使ったロボットアプリケーション開発

主催者: 横浜システム工学院専門学校/デジタルコム(株)
外部講師: デジタルコム(株)社員
内容: システム仕様設計・概要設計・詳細設計・実装・テスト(デジタルコム(株)との共同開発)
受講者: 仲久保正人、中村恭太、MR科学生
期間: (平成28年5/13、6/21、7/7、8/22...毎月1回の打ち合わせ会議を実施)

3) Webサイトにおけるクラウドとプレゼンソフトを使った動的コンテンツ制作研修

主催者: 横浜システム工学院専門学校教育指導室
外部講師: (株)4CORORSコンテンツプロデューサー伊東剛
内容: 「クラウドとPowerPointを組み合わせた動的コンテンツ制作と集客スキル研修」
受講者: 仲久保正人、中村恭太、三輪基敦、他YSE専任教職員
平成28年8月31日(水)、10月5日(水) 16時30分~18時30分

4) MATLAB EXPO 2016 Japan/データアナリティクス/IoTのセッション

主催者: MathWorks 場所: グランドニッコー東京 台場
内容と外部講師: データアナリティクス/IoTセッション
D2 MATLABによる時系列データ解析と予測 中川慶子
D3 モノづくりのための数理モデルの最適化 大開孝文
D4 センサーデータアナリティクスの開発から運用まで 吉田剛士
受講者: 三輪 基敦
期間: 平成28年10月19日(水)

② 指導力の修得・向上のための研修等

1) 「アクティブラーニング研修」

外部講師: 萱沼 義一(株)ビーコンラーニングサービス コンサルタント
内容: アクティブラーニング入門から応用まで
受講者: 仲久保正人、中村 恭太 他YSE専任教員
期間: 平成28年3月16日(水)、18日(金)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の教育活動その他の学校の運営の状況について、自己点検・自己評価結果に基づき学校関係者評価を行い、学校運営の改善並びに教育水準の向上に資するための方策を講ずる。
本校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供することにより、企業等関係者の理解を深めると共に、良好な連携及び協力体制を推進する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標 ・理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) ・学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか ・学校における職業教育の特色は明確になっているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか

(2) 学校運営	<p>(2) 学校運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営がなされているか ・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・目的等に沿った事業計画が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか ・教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか ・学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順(予防処置及び是正処置)を確立しているか ・利害関係者が不満を抱いている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか
(3) 教育活動	<p>(3) 教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・情報・IT 分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・Can-Do を意識した各科目の授業シラバスが作成されているか ・情報・IT 分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に配布されているか ・実習室等の学校施設、設備の利用割り当て(スケジュール管理)が明確になっているか ・学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配慮がされているか ・教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況(学習環境等)を確認・検証しているか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価し、それらの評価結果を記録しているか ・情報・IT 分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか(研修等の効果を評価し、文書により記録しているか) ・情報・IT 分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか
(4) 学修成果	<p>(4) 学修成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか ・学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか ・成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか ・ニーズ調査結果に基づき目的(到達目標)を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか ・学習サービス(教育・訓練)を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援	<p>(5) 学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・保護者と適切に連携しているか ・社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・卒業生への支援体制はあるか ・図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	<p>(6) 教育環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか。 ・教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか ・防災に対する体制は整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
(7) 学生の受入れ募集	<p>(7) 学生の受入れ募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか(例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか) ・履歴書(学歴、所有資格など)を適切に入手し、適切な管理を行っているか ・学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか ・学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか ・学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか ・教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 教育の内部質保証システム	<p>(8) 教育の内部質保証システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)ならびに決裁の流れを含む決裁規程(文書処理規程)が文書化されているか ・自己点検・評価や内部監査の実施と問題点の改善に努めているか ・監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか ・内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか ・内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか ・自己点検・評価結果を公開しているか
(9) 財務	<p>(9) 財務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<p>(10) 社会貢献・地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	<p>(11) 国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

企業等との連携については、共同開発を進めることで、技術進歩に広がりや奥行きが出、教員や学生の新技术修得や開発プロセスの修得につながっていく。地域への貢献については、企業向けの社員研修講座や、近隣の奨学生を対象にしたプログラミング/ロボット教室を開催して、講評を博している。企業連携や地域貢献は、今後も一層強化していくことで、地域に根差した専門学校としての存在感を確かなものとしたい。より多くのステークホルダーに対して、多様なかたちでの教育連携について検討し実施しなければならないとの認識を持ち、連携可能な科目・連携方法について検討していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
中村 隆一	秀英高等学校 校長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	校長
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会副委員長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	業界団体委員
田村 孝章	株式会社アド マネジャー	平成25年10月1日～平成29年9月30日	企業等委員
藤原 美香	イースタン電波工業株式会社 代表取締役専務	平成25年10月1日～平成29年9月30日	企業等委員
粕谷 佳余	株式会社インターフェイス東京オフィス 所長代理	平成25年10月1日～平成29年9月30日	企業等委員
新井 一功	株式会社機能性表示プランニング 監査役	平成27年6月1日～平成29年5月31日	企業等委員
前山 浩志	デジタルコム株式会社 代表取締役社長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	企業等委員
金子 秀光	株式会社横浜電算 代表取締役社長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	企業等委員
久保寺 美奈	卒業生	平成25年10月1日～平成29年9月30日	卒業生
森 るみ子	保護者	平成27年4月20日～平成29年3月31日	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

URL:<http://www.yca.ac.jp/introduction/information.html>

ホームページでの情報公開:平成28年9月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿って、学校案内・募集要項等の印刷物やホームページを通して情報提供を行っている。毎年、6月の学校関係者評価委員会で確認後、9月1日には公表できるようにしている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・学校案内 ごあいさつ、沿革、YSEの強み、交通アクセス、 情報公開 加入団体・教育連携
(2) 各学科等の教育	・学科案内 モバイル・ロボット科 ロボット・組込みソフトコース スマート・モバイルソフトコース ・入学案内 募集学科・入学資格、入学方法、出願方法
(3) 教職員	・事業報告書(抜粋) ・平成28年度専任教員別主な担当科目一覧
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・就職・進学案内 就職サポート、大学編入サポート、就職先一覧
(5) 様々な教育活動・教育環境	・事業報告書(抜粋)、 ・学校案内 実習室・施設・設備、 ・キャンパスライフ、YSE新聞
(6) 学生の生活支援	・入学案内 各種サポート制度
(7) 学生納付金・修学支援	・入学案内 学費・納入方法、学費分割納入制度
(8) 学校の財務	・財務計算に関する書類
(9) 学校評価	・自己点検評価報告書 ・学校関係者評価報告書
(10) 国際連携の状況	・入学案内 留学生の受け入れ、留学生サポート制度
(11) その他	・学則、 ・チラシ・パンフレット 高等学校の先生方へ、先生対象セミナーのご案内

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.yca.ac.jp/introduction/information.html>

(別紙様式 2)

授業科目等の概要

(工業専門課程モバイル・ロボット科ロボット・組込みソフトコース) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			情報リテラシーa	PC・オフィスソフトの基本操作(Word、Excel)	1①	36	△		○	○		○		
○			情報リテラシーb	情報システム・Webシステムの活用	1①	18	○	△		○		○		
○			コンピュータ概論	コンピュータシステムの概要	1①	36	○	△		○		○		
○			クラウドコンピューティング概論	クラウドシステムの概要、SNS(ソーシャルネットワークワークサイト)の活用	1③	36	○			○		○		
○			ビジネスマナー	社会人、ビジネスマンとしてのマナーを身につける	1④	18	△	○		○		○		
○			プレゼンテーション	プレゼンテーション資料の作り方、プレゼン実践(Powerpoint)	1③	18	△			○	○	○		
○			文章作法	ロジカルライティング、ビジネス文書作法	1②	18	△	○		○		○		
○			ものづくり概論	電子工作の基礎	1①	36	△			○	○		○	
○			アルゴリズム	さまざまなアルゴリズムと表現技法を学びCで実験	1①	108	○	△		○		○		
合計				科目										単位時間

卒業要件及び履修方法	授業期間等
	1学年の学期区分 期
	1学期の授業期間 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式2)

授業科目等の概要

(工業専門課程モバイル・ロボット科ロボット・組込みソフトコース)平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			プログラミング実習a	Arduino をC 言語でコントロール	1②	72		△		○	○		○		
○			プログラミング実習b	NXT をC 言語でコントロール	1③	72		△		○	○		○		
○			プログラミング実習c	Cプログラミングの応用、マイコンプログラミング	1④	72		△		○	○		○		
○			ネットワーク技術	ネットワーク方式、データ通信と制御、通信プロトコル、ネットワーク管理	1②	36		○	△		○		○		
○			データベース技術	データベース方式、データベース設計、データ操作、トランザクション処理	1②	36		○	△		○		○		
○			組込みマイコン基礎a	電子部品とブレッドボードでアナログ回路の基礎	1①	18		○		△	○			○	
○			組込みマイコン基礎b	電子部品とブレッドボードでアナログ回路の基礎	1②	18		△		○	○			○	
○			組込みマイコン基礎c	電子部品とブレッドボードでデジタル回路の基礎 PIC マイコン	1③	18		△		○	○			○	
○			組込みマイコン基礎d	電子部品とブレッドボードでデジタル回路の基礎 PIC マイコン	1④	18		△		○	○			○	
合計				科目	単位時間										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式2)

授業科目等の概要

(工業専門課程モバイル・ロボット科ロボット・組込みソフトコース)平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			組込みマイコン応用a	電子回路製作実習(電子部品の理解と工作技術)PIC マイコン	1②	36		△		○	○			○	
○			組込みマイコン応用b	電子回路製作実習(電子部品の理解と工作技術)PIC マイコン	1③	36		△		○	○			○	
○			組込みマイコン応用c	電子回路製作とマイコンプログラム実習(プログラムでのマイコンと電子回路の制御)PIC マイコン	1④	36		△		○	○			○	
○			ロボット制御a	ロボットコンテスト用のロボット(LEGO)製作とロボット制御	1②	36		△		○	○			○	
○			ロボット制御b	スチールファイト用のロボット製作と組込みシステム開発	1③	36		△		○	○			○	
○			ロボット制御c	スチールファイト用のロボット製作と組込みシステム開発のまとめ	1④	36		△		○	○			○	
○			ロボコン I a	スチールファイトで入賞できるロボットの製作をテーマにシステム開発プロジェクト演習	1③	36		△		○	○			○	
○			ロボコン I b	コンテスト用ロボットプロトタイプ製作と実験・検証	1④	36		△		○	○			○	
○			サーバシステム構築	スマートホンやタブレット端末とアクセスするサーバシステムの構築	1④	36		○		△	○			○	
合計			科目		単位時間										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式2)

授業科目等の概要

(工業専門課程モバイル・ロボット科ロボット・組込みソフトコース)平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			キャリアデザイン I a	学生生活指導、学修指導や検定試験対策、補習など。将来設計や就職に関わる見学などの実施	1①	18	○	△		○	○			
○			キャリアデザイン I b	学生生活指導、学修指導や検定試験対策、補習など。将来設計や就職に関わる見学などの実施	1②	18	△	○		○	○			
○			キャリアデザイン I c	就職などの将来設計と就職に関わる履歴書等の作成、自分研究と業界研究、会社説明会出席心得	1③	18	△	○		○	○			
○			キャリアデザイン I d	就職などの将来設計と就職に関わる履歴書等の作成、自分研究と業界研究、会社説明会出席心得	1④	18	△	○		○	○		○	
○			ロボコン II a	ロボットコンテストを通じた組込みシステム開発の実践的開発プロジェクト学習	2①	36	△		○	○	○			
○			ロボコン II b	コンテスト用ロボット制御システムのモジュール別開発と検証	2②	36	△		○	○	○			
○			ロボコン II c	コンテスト用ロボット本製作とコース練習・改良・調整・仕上げ	2③	36	△		○	○	○			
○			ロボコン II d	コンテスト用ロボット本製作とコース練習・改良・調整・仕上げ	2④	36	△		○	○	○			
○			オブジェクト指向システム設計	UMLを使ったオブジェクト指向システム設計・モデリング	2①	72	△	○		○	○			
合計				科目	単位時間									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
		1学年の学期区分
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式2)

授業科目等の概要

(工業専門課程モバイル・ロボット科ロボット・組込みソフトコース)平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			オブジェクト指向プログラミングa	C++/C# でオブジェクト指向プログラミング オブジェクト指向システム設計と連動	2②	72		△		○	○		○		
○			オブジェクト指向プログラミングb	C++/C# でオブジェクト指向プログラミング オブジェクト指向システム設計と連動	2③	72		△		○	○		○		
○			組込みシステム制作a	作品製作	2②	36		△		○	○		○		
○			組込みシステム制作b	作品製作	2③	36		△		○	○		○		
○			組込みシステム制作c	作品製作	2④	36		△		○	○		○		
○			ロボット制御ソフト制作a	コンテスト用ロボット制御システムのモジュール別開発と検証	2①	72		△	○		○		○		
○			ロボット制御ソフト制作b	ロボット制御システムの総合開発とシステムテストおよびコース練習・改良・調整・仕上げ	2②	72		△		○	○		○		
○			ロボット制御ソフト制作c	ロボット制御システムの総合開発とシステムテストおよびコース練習・改良・調整・仕上げ	2③	72		△		○	○		○		
○			センサーデバイスインターフェース	センサデバイスやセンサデバイスを制御するPCとのインターフェースを製作	2①	72		△	○		○		○		
合計			科目		単位時間										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式2)

授業科目等の概要

(工業専門課程モバイル・ロボット科ロボット・組込みソフトコース) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			センサーネットワークプログラミング	センサとネットワークを利用したプログラミング	2④	144		△		○	○		○		
○			卒業研究a	卒業研究テーマ検討、コンセプト設計、基本設計、プロトタイプ制作	2②	36		△		○	○		○		○
○			卒業研究b	卒業研究テーマに基づく作品制作、プロトタイプの見直し	2③	36		△		○	○		○		○
○			卒業研究c	卒業研究完成、発表資料作成、発表練習	2④	36		△		○	○		○		○
○			キャリアデザインⅡa	ホームルーム、進路に応じた個別指導、就職試験対策、面接指導など	2①	18		△	○		○		○		
○			キャリアデザインⅡb	ホームルーム、進路に応じた個別指導、就職試験対策、面接指導など	2②	18		△	○		○		○		
○			キャリアデザインⅡc	ホームルーム、学修指導や進路未定者の重点指導	2③	18		△	○		○		○		
○			キャリアデザインⅡd	ホームルーム、学修指導や進路未定者の重点指導	2④	18		△	○		○		○		
		○	インターンシップ	職場実習	2④			△		○	○				
合計			54 科目			2160 単位時間									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：1,700単位時間履修かつ「卒業研究a」「卒業研究b」「卒業研究c」履修	1学年の学期区分	4期
	1学期の授業期間	9週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
横浜システム工学院専門学校	平成4年8月11日	杉山 勝巳	〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人YSE学園	平成4年8月11日	杉山 勝巳	〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881				
目的	本学科では、組込みソフトウェアを中心に、ハード・ソフト系の仕事を通して成長していける基本的な社会人基礎力と実践的かつ専門的な技術力を持った人材を育成する。そのためにアクティブラーニングやプロジェクトベースラーニングなどを取り入れて、明確で具体的な目標のもとにチーム作業を進めることで、在学中に、プロジェクト管理・スケジュール管理・情報共有・コミュニケーション・プレゼンテーションなどの様々な力を養い、企業へ入社後、仕事を通して主体的に成長していけるたくましく伸びしろのある人材となる学生を育成する。						
分野	課程名	学科名	専門士 平成23年 文部科学大臣告示第167号	高度専門士			
工業	工業専門課程	モバイル・ロボット科 (モバイルゲームソフトコース)	—	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2,160	342	378	480	480	480
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
50人	2人	3人	1人	4人			
学期制度	■1学期:4月4日～6月10日 ■2学期:6月13日～9月9日 ■3学期:9月12日～11月18日 ■4学期:11月21日～2月10日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 SABCDの5段階評価 評点(100点満点、60点未満不可) 出席状況・課題への取り組み・達成結果・試験の結果を総合的に判断する。			
長期休み	■学年始:4月1日～4月3日 ■夏季:8月1日～8月19日 ■冬季:12月26日～1月6日 ■学年末:3月27日～3月31日		卒業・進級条件	卒業要件:2160単位時間履修し、「卒業研究a」、「卒業研究b」、「卒業研究c」を含む1,700単位時間以上の授業科目に合格すること。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 課題や近況報告をメールや電話でやりとりし、保護者と連携して、無理のない範囲でスクーリングさせながら様子を見る。授業とは別に特別メニューを個別に用意して指導する。		課外活動	■課外活動の種類 ロボットコンテスト出場・全国専門学校情報教育協会主催ロボット競技会 ■サークル活動: 無			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 ICT系、ET系のソフト開発、システム運用、インフラ構築ものづくり系の設計製造 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100% ■その他 (平成27年度卒業者に関する平成28年5月1日時点の情報)		主な資格・検定等	情報検定情報活用試験 C言語プログラミング能力認定 ITパスポート			
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0% 平成27年4月1日時点において、在学者5名(平成27年4月1日入学者を含む) 平成28年3月31日時点において、在学者5名(平成28年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止のための取組 学生が孤立しないように教員が積極的にコミュニケーションづくりを働きかけている。出席状況や授業態度や興味関心意欲などは平素から担任が把握し、MR科に関わる教員間(常勤・非常勤含めて)で情報交換している。おかしな様子が見られるときには早め早めに本人やクラスメイトに働きかける。それでも改善が見られないときには、保護者に連絡を取り家庭での指導との連携を心がけている。出席面や学習面で合わない学生が出た場合には、別メニューで個別フォローをし、資格取得や作品作りで実績を作って自信を持たせるようにしている。						
ホームページ	http://www.yse.ac.jp/						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保して、職業実践的かつ専門的な能力を持つ人材を育成するため、特に職業に関連した企業、関係施設、業界団体等との密接な連携を通じ、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組むことを目的とする。

1)教育課程の編成に関すること

①企業等からも委員を募り、委員の意見を反映して、授業科目等の教育課程の編成、授業方法や成績評価方法の改善・工夫などを協議する。

2)教育の実践に関すること

①企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保し、演習・実習等を実施できるよう協議する。

②新鮮な実践的教材により、活きた育てる実践的な教育を実施できるよう協議する。

③企業内実習、コラボレーション、インターンシップ等、企業との関わりを増やし、学生が企業の現場を知り、学んでいることがどう活かせるかを知ることにより、職業理解を深めると共に、安心して学業に取り組める環境を構築し、学業意欲の向上を図れるように協議する。

④経験豊富な企業人講師による特別授業を適時行えるように講師選びを協議する。

⑤企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるよう協議する。

⑥企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育を推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるよう協議する。

⑦楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活きた課題に取り組みながら、自信と自主性を育てられるよう協議する。

⑧YSEフェスタや卒業制作発表会などの学校行事に向けては、企業等の声を取り入れて、グループで実践的な活きた作品作りに取り組めるよう協議する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

(1)の基本方針のもとに、教育実践に関する①—⑧の項目について協議するために、教育課程編成委員会で協議する。学科で編纂した教育課程・授業内容・授業方法に関して、専門分野ならびに就業後の実務や職業人としての立場から意見をいただき、その内容を教育にフィードバックする。また、該当年度の実施状況の報告にもとづく見直しへの提案やアドバイスをいただき、次年度のカリキュラムに反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会副委員長	平成25年10月1日～平成29年3月31日	①
田村 孝章	株式会社アド マネジャー	平成25年10月1日～平成29年9月30日	③
藤原 美香	イースタン電波工業株式会社 代表取締役専務	平成25年10月1日～平成29年9月30日	③
前山 浩志	デジタルコム株式会社 代表取締役社長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	③
杉山 勝巳	横浜システム工学院専門学校 理事長 学院長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	学校委員
仲久保 正人	横浜システム工学院専門学校 理事・教頭	平成25年10月1日～平成29年9月30日	学校委員

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

毎年2回実施する

(開催日時)

平成28年度

第1回 平成28年6月29日 16:30～18:30

第2回 平成28年9月26日 16:30～18:30

平成27年度は下記2回開催

第1回 平成27年6月23日 16:30～18:30

第2回 平成27年9月16日 16:30～18:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

平成27年度の教育課程編成委員会では、ロボコンを中心とした取り組みだけでは、技術進歩に広がりや奥行きが出てこないため、現状の成果を維持しつつ、新技術を取り込んでいくことが、学校側の課題としてあがった。それに対して、企業でも同様な課題があり、現状の仕事をこなしつつ、新分野・新技術を勉強して取り込んでいかないと新しいことが出来なくなるとのご意見があり、この観点から、カリキュラムと卒業研究課題・内容を見直すことにし、また研修についても検討することになった。カリキュラムについては、素案が出来た段階で、企業に提示して、アドバイスをもらうことにした。社員研修については、新人教育の部分をYSEで行えるか検討することになった。

その結果、平成29年度のカリキュラムは大幅に刷新し、平成28年度はロボコンは極力減らして、新技術や新分野への対応することになった。平成28年度はコミュニケーションロボットPepperのアプリケーション開発を、卒業研究テーマとして、企業との共同開発を行うことで、学生、教員、社員相互の新技術の修得と研修効果を上げるべく、また、ビジネス展開をすることも考えて、取り組んでいる。社員研修もYSEでIT系新入社員研修を実施した。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

教育連携協定書の以下の項目

- ②新鮮な実践的教材により、活かした育てる実践的な教育を実施できるようにする。
- ⑤企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるようにする。
- ⑥企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育を推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるようにする。
- ⑦楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活かした課題に取り組みながら、自信と自主性を育てられるようにする。

以上の実践に当たっては、学生が学ぶこと、経験することを、実践的職業体験に昇華させて技術や知識を自分のモノにさせる。そのために、課題挑戦型プロジェクト教育という手法を使って、チームでの作品作りを中心に、実習・演習を行い、プレゼンテーションで締めくくりにしている。

1年次のキャリアデザインと2年次の卒業研究とは、企業の方の講演・実習・演習・指導や職場見学を取り入れて、最新業界動向と最新技術動向に触れさせ、具体的な研究テーマの掘り下げを行っている。実習終了時には、企業担当者による学修成果の評価を踏まえ、授業科目の担当教員とクラス担任が学修成果の評価・単位認定を行った。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

1年次のキャリアデザイン

自分のキャリアデザインを、実際に現場で仕事をしている方を指導員として仕事の全体像や、個々の仕事の説明を受け、課題制作を通して考える。キャリアをデザインする中で自分の専門学校での学びを位置づけて就業意識を高める。実習終了時には、企業担当者による学修成果の評価を踏まえ、授業科目の担当教員とクラス担任が学修成果の評価・単位認定を行う。

2年次の卒業研究

現在話題になっている技術や今後話題になる技術について、実際に現場で仕事をしている方を指導員として講演・実習・演習等の指導や職場見学を取り入れて、最新業界動向と最新技術動向に触れさせ、具体的な研究テーマを決めて掘り下げた。実習終了時には、企業担当者による学修成果の評価を踏まえ、授業科目の担当教員とクラス担任が学修成果の評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
キャリアデザイン I d	ICT系企業の仕事内容について実践的に学ぶ。業界の俯瞰、個々の仕事の現場の様子などの一連の話と、アプリケーションの企画立案からプレゼンテーションまでを、一通り体験する。	株式会社エスアイイー KIA
卒業研究 a	最先端のICT、ET、M2M、IoTなどの技術や、開発手法、業界動向などについて広く俯瞰しながら、具体的なテーマを見つけて掘り下げて、作品制作を通して具体的に研究し学ぶ。	デジタルコム株式会社 イースタン電波工業株式会社
卒業研究 b	卒業研究 a で見つけた具体的なテーマを掘り下げて、作品制作を通して具体的に研究し学ぶ。企業から仕様書を提示してもらい、設計から実装テストまで学生が一通り開発工程を行う。	デジタルコム株式会社 イースタン電波工業株式会社
卒業研究 c	卒業研究 b で開発・制作したIoTシステム作品を実際に使ってもらい評価を受け、必要な改良や改善を行った結果を、発表会でプレゼンテーションし、展示会で実演する。	デジタルコム株式会社 イースタン電波工業株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員研修規則 第2条(研修の基本方針)

教員に必要な専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修・研究、並びに、専攻分野における授業及び学生に対する指導力を修得・向上するための研修・研究を目的として、企業等との連携のもと、組織的な研修の機会を設ける。

に基づき、研修に当たっては、職務の一環として参加している。

情報システム／組込みシステム系の技術に関しては進展の速度が速く、常に最新の技術動向を学習することが求められているため、本学科の担当教員については技術研修を重視し、積極的に研修に参加させている。

また、企業現場での実績を重視した教員採用を行っているが、学生の指導に関しては専門学校で学生を指導するための技術が必要であり、指導技術についても積極的に参加させている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

1) 実践型C言語指導者層向け研修会

主催者：一般社団法人 組込みシステム技術協会

講師：坂上真市氏（日本システム開発(株) 部長） 西方彩乃氏（日本システム開発(株)）

内容：組込み系C言語実装と単体テスト

受講者：中村 恭太

期間：平成27年8月27日(木)、28日(金)

2) 情報系専門学校と神奈川県情報サービス産業協会(神情協)情報交換会

主催者：(社)神奈川県情報サービス産業協会

講師：(社)神奈川県情報サービス産業協会会員企業社員

内容：神奈川県の情報サービス産業協会会員企業との業界情報・就職採用情報・人材育成情報などの交換

受講者：仲久保正人、知野朱穂

期間：平成27年9月30日(水)

3) 情報処理学会組込みシステム研究会ESS2015組込みシステムシンポジウム

主催者：(一社)情報処理学会組込みシステム研究会

講師：(一社)情報処理学会組込みシステム研究会会員

内容：スマートモバイルロボットシステム製作と出展ならびに専門分野情報の調査研究

受講者：仲久保正人、中村恭太、中原大介

期間：平成27年10月21日(水)、22日(木)、23日(金)

4) IoT/ET2015組込み総合技術展

主催者：(一社)組込みシステム技術協会

講師：IoT/ET2015組込み総合技術展参加企業社員

内容：IoT/ETシステム作品制作と出展ならびに最新技術動向の調査研究

受講者：仲久保正人、中村恭太、中原大介

期間：平成27年11月18日(水)、19日(木)、20日(金)

② 指導力の修得・向上のための研修等

1) ゼミ学習のためのファシリテーション研修

主催者：横浜システム工学院専門学校教育指導室

外部講師：株式会社ウチダ人材開発センター 鏡貴絵

内容：「教える技術」の強化を目指し、質の高い講座を提供するために必要なファシリテーションスキル研修

受講者：仲久保正人、中村恭太、中原大介、他YSE専任教員

期間：平成27年3月17日(火)、18日(水)

2) 教員研修：担任力強化・指導力強化

主催者：横浜システム工学院専門学校教育指導室

外部講師：神奈川県立大和西高等学校キャリアガイダンスグループ飯沼氏

内容：高等学校の教育現場の現状と学生に対する指導方法、専門学校教員の指導力について学ぶ研修。

受講者：仲久保正人、中村恭太、中原大介、他YSE専任教員

期間：平成27年8月3日(月)

3) ファシリテーションスキル養成(中級)教育力向上研修会

主催者：INVITE(全国専門学校情報教育協会)

講師：宮口直人様(株式会社ウチダ人材開発センター講師)

内容：学生の主体性と自発的思考力を伸ばす授業運営スキルの養成

受講者：中原大介、中村恭太

期間：平成27年8月6日(木)、7日(金)

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

1) コミュニケーションロボットPepperアプリケーション開発について

主催者: ソフトバンクグループ(株)

講師: ソフトバンクグループ(株)社員

内容: 概要セミナー、筆記試験、実技試験

受講者: 仲久保正人、中村恭太

期間: 平成27年2/29、3/31、4/6、5/23、6/20、7/19、8/16

2) コミュニケーションロボットPepperを使ったロボットアプリケーション開発

主催者: 横浜システム工学院専門学校/デジタルコム(株)

外部講師: デジタルコム(株)社員

内容: システム仕様設計・概要設計・詳細設計・実装・テスト(デジタルコム(株)との共同開発)

受講者: 仲久保正人、中村恭太、MR科学生

期間: (5/13、6/21、7/7、8/22...毎月1回の打ち合わせ会議を実施)

3) Webサイトにおけるクラウドとプレゼンソフトを使った動的コンテンツ制作研修

主催者: 横浜システム工学院専門学校教育指導室

外部講師: (株)4CORORSコンテンツプロデューサー伊東剛

内容: 「クラウドとPowerPointを組み合わせた動的コンテンツ制作と集客スキル研修」

受講者: 仲久保正人、中村恭太、三輪基敦、他YSE専任教職員

期間: 平成28年8月31日(水)16時30分～18時30分

平成28年8月31日(水)、10月5日(水) 16時30分～18時30分

4) MATLAB EXPO 2016 Japan

主催者: MathWorks 場所: グランドニッコー東京 台場

内容と外部講師: データアナリティクス/IoTセッション

D2 MATLABによる時系列データ解析と予測 中川慶子

D3 モノづくりのための数理モデルの最適化 大開孝文

D4 センサーデータアナリティクスの開発から運用まで 吉田剛士

受講者: 三輪 基敦

期間: 平成28年10月19日(水)

②指導力の修得・向上のための研修等

1) 「アクティブラーニング研修」

外部講師: 萱沼 義一(株)ビーコンラーニングサービス コンサルタント

内容: アクティブラーニング入門から応用まで

受講者: 仲久保正人、中村 恭太 他YSE専任教員

期間: 平成28年3月16日(水)、18日(金)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の教育活動その他の学校の運営の状況について、自己点検・自己評価結果に基づき学校関係者評価を行い、学校運営の改善並びに教育水準の向上に資するための方策を講ずる。

本校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供することにより、企業等関係者の理解を深めると共に、良好な連携及び協力体制を推進する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標 ・理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) ・学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか ・学校における職業教育の特色は明確になっているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか

(2) 学校運営	<p>(2) 学校運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営がなされているか ・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・目的等に沿った事業計画が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか ・教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか ・学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順(予防処置及び是正処置)を確立しているか ・利害関係者が不満を抱いている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか
(3) 教育活動	<p>(3) 教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・情報・IT 分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・資格取得の指導體制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・Can-Do を意識した各科目の授業シラバスが作成されているか ・情報・IT 分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に配布されているか ・実習室等の学校施設、設備の利用割り当て(スケジュール管理)が明確になっているか ・学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配慮がされているか ・教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況(学習環境等)を確認・検証しているか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価し、それらの評価結果を記録しているか ・情報・IT 分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか(研修等の効果を評価し、文書により記録しているか) ・情報・IT 分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか
(4) 学修成果	<p>(4) 学修成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか ・学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか ・成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか ・ニーズ調査結果に基づき目的(到達目標)を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか ・学習サービス(教育・訓練)を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援	<p>(5) 学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・保護者と適切に連携しているか ・社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・卒業生への支援体制はあるか ・図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	<p>(6) 教育環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか。 ・教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか ・防災に対する体制は整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
(7) 学生の受入れ募集	<p>(7) 学生の受入れ募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか(例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか) ・履歴書(学歴、所有資格など)を適切に入手し、適切な管理を行っているか ・学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか ・学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか ・学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか ・教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報の取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 教育の内部質保証システム	<p>(8) 教育の内部質保証システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)ならびに決裁の流れを含む決裁規程(文書処理規程)が文書化されているか ・自己点検・評価や内部監査の実施と問題点の改善に努めているか ・監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか ・内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか ・内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか ・自己点検・評価結果を公開しているか
(9) 財務	<p>(9) 財務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<p>(10) 社会貢献・地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	<p>(11) 国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

企業等との連携については、共同開発を進めることで、技術進歩に広がりや奥行きが出、教員や学生の新技术修得や開発プロセスの修得につながっていく。地域への貢献については、企業向けの社員研修講座や、近隣の奨学生を対象にしたプログラミング/ロボット教室を開催して、講評を博している。企業連携や地域貢献は、今後も一層強化していくことで、地域に根差した専門学校としての存在感を確かなものとしたい。より多くのステークホルダーに対して、多様なかたちでの教育連携について検討し実施しなければならないとの認識を持ち、連携可能な科目・連携方法について検討していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
中村 隆一	秀英高等学校 校長	平成25年10月1日～成29年9月30日	校長
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会副委員長	平成25年10月1日～成29年9月30日	業界団体委員
田村 孝章	株式会社アド マネジャー	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
藤原 美香	イースタン電波工業株式会社 代表取締役専務	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
粕谷 佳余	株式会社インターフェイス東京オフィス 所長代理	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
新井 一功	株式会社機能性表示プランニング 監査役	平成27年6月1日～成29年5月31日	企業等委員
前山 浩志	デジタルコム株式会社 代表取締役社長	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
金子 秀光	株式会社横浜電算 代表取締役社長	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
久保寺 美奈	卒業生	平成25年10月1日～成29年9月30日	卒業生
森 るみ子	保護者	平成27年4月20日～成29年3月31日	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

URL:<http://www.yca.ac.jp/introduction/information.html>

ホームページでの情報公開:平成28年9月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿って、学校案内・募集要項等の印刷物やホームページを通して情報提供を行っている。毎年、6月の学校関係者評価委員会で確認後、9月1日には公表できるようにし、(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・学校案内 ごあいさつ、沿革、YSEの強み、交通アクセス、 情報公開 加入団体・教育連携
(2) 各学科等の教育	・学科案内 モバイル・ロボット科 ロボット・組込みソフトコース スマート・モバイルソフトコース ・入学案内 募集学科・入学資格、入学方法、出願方法
(3) 教職員	・事業報告書(抜粋) ・平成28年度専任教員別主な担当科目一覧
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・就職・進学案内 就職サポート、大学編入サポート、就職先一覧
(5) 様々な教育活動・教育環境	・事業報告書(抜粋)、 ・学校案内 実習室・施設・設備、 ・キャンパスライフ、YSE新聞
(6) 学生の生活支援	・入学案内 各種サポート制度
(7) 学生納付金・修学支援	・入学案内 学費・納入方法、学費分割納入制度
(8) 学校の財務	・財務計算に関する書類
(9) 学校評価	・自己点検評価報告書 ・学校関係者評価報告書
(10) 国際連携の状況	・入学案内 留学生の受け入れ、留学生サポート制度
(11) その他	・学則、 ・チラシ・パンフレット 高等学校の先生方へ、先生対象セミナーのご案内

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.yca.ac.jp/introduction/information.html>

(別紙様式2)

授業科目等の概要

(工業専門課程モバイル・ロボット科モバイルゲームソフトコース) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	
○			情報リテラシーa	PC・オフィスソフトの基本操作(Word、Excel)	1①	36		△	○	○		○		
○			情報リテラシーb	情報システム・Webシステムの活用	1①	18		○	△		○		○	
○			コンピュータ概論	コンピュータシステムの概要	1①	36		○	△		○		○	
○			クラウドコンピューティング概論	クラウドシステムの概要、SNS(ソーシャルネットワークワークサイト)の活用	1③	36		○			○		○	
○			ビジネスマナー	社会人、ビジネスマンとしてのマナーを身につける	1④	18		△	○		○		○	
○			プレゼンテーション	プレゼンテーション資料の作り方、プレゼン実践(Powerpoint)	1③	18		△		○	○		○	
○			文章作法	ロジカルライティング、ビジネス文書作法	1②	18		△	○		○		○	
○			ものづくり概論	電子工作の基礎	1①	36		△		○	○		○	
○			アルゴリズム	さまざまなアルゴリズムと表現技法を学びCで実験	1①	108		○	△		○		○	
合計			科目			単位時間								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
		1学年の学期区分
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 2)

授業科目等の概要

(工業専門課程モバイル・ロボット科モバイルゲームソフトコース) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			プログラミング実習a	Arduino をC 言語でコントロール	1②	72		△	○	○	○				
○			プログラミング実習b	NXT をC 言語でコントロール	1③	72		△	○	○	○				
○			プログラミング実習c	Cプログラミングの応用、マイコンプログラミング	1④	72		△	○	○	○				
○			ネットワーク技術	ネットワーク方式、データ通信と制御、通信プロトコル、ネットワーク管理	1②	36		○	△		○	○			
○			データベース技術	データベース方式、データベース設計、データ操作、トランザクション処理	1②	36		○	△		○	○			
○			組込みマイコン基礎a	電子部品とブレッドボードでアナログ回路の基礎	1①	18		○		△	○			○	
○			組込みマイコン基礎b	電子部品とブレッドボードでアナログ回路の基礎	1②	18		△		○	○			○	
○			組込みマイコン基礎c	電子部品とブレッドボードでデジタル回路の基礎 PIC マイコン	1③	18		△		○	○			○	
○			組込みマイコン基礎d	電子部品とブレッドボードでデジタル回路の基礎 PIC マイコン	1④	18		△		○	○			○	
合計			科目		単位時間										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式2)

授業科目等の概要

(工業専門課程モバイル・ロボット科モバイルゲームソフトコース) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			組込みマイコン応用a	電子回路製作実習(電子部品の理解と工作技術)PICマイコン	1②	36		△		○	○			○	
○			組込みマイコン応用b	電子回路製作実習(電子部品の理解と工作技術)PICマイコン	1③	36		△		○	○			○	
○			組込みマイコン応用c	電子回路製作とマイコンプログラム実習(プログラムでのマイコンと電子回路の制御)PICマイコン	1④	36		△		○	○			○	
○			ロボット制御a	ロボットコンテスト用のロボット(LEGO)製作とロボット制御	1②	36		△		○	○			○	
○			ロボット制御b	スチールファイト用のロボット製作と組込みシステム開発	1③	36		△		○	○			○	
○			ロボット制御c	スチールファイト用のロボット製作と組込みシステム開発のまとめ	1④	36		△		○	○			○	
○			ロボコンIa	スチールファイトで入賞できるロボットの製作をテーマにシステム開発プロジェクト演習	1③	36		△		○	○			○	
○			ロボコンIb	コンテスト用ロボットプロトタイプ製作と実験・検証	1④	36		△		○	○			○	
○			モバイルゲームソフト制作技法	モバイルゲームをリエンジニアリング	1④	36		○		△	○			○	
合計			科目		単位時間										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付す
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 2)

授業科目等の概要

(工業専門課程モバイル・ロボット科モバイルゲームソフトコース) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			キャリアデザイン I a	学生生活指導、学修指導や検定試験対策、補習など。将来設計や就職に関わる見学などの実施	1①	18		○	△		○		○		
○			キャリアデザイン I b	学生生活指導、学修指導や検定試験対策、補習など。将来設計や就職に関わる見学などの実施	1②	18		△	○		○		○		
○			キャリアデザイン I c	就職などの将来設計と就職に関わる履歴書等の作成、自分研究と業界研究、会社説明会出席心得	1③	18		△	○		○		○		
○			キャリアデザイン I d	就職などの将来設計と就職に関わる履歴書等の作成、自分研究と業界研究、会社説明会出席心得	1④	18		△	○		○		○		○
○			ロボコン II a	ロボットコンテストを通じた組込みシステム開発の実践的開発プロジェクト学習	2①	36		△		○	○		○		
○			ロボコン II b	コンテスト用ロボット制御システムのモジュール別開発と検証	2②	36		△		○	○		○		
○			ロボコン II c	コンテスト用ロボット本製作とコース練習・改良・調整・仕上げ	2③	36		△		○	○		○		
○			ロボコン II d	コンテスト用ロボット本製作とコース練習・改良・調整・仕上げ	2④	36		△		○	○		○		
○			オブジェクト指向システム設計	UMLを使ったオブジェクト指向システム設計・モデリング	2①	72		△	○		○		○		
合計				科目	単位時間										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
		1学年の学期区分
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付す
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式2)

授業科目等の概要

(工業専門課程モバイル・ロボット科モバイルゲームソフトコース) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			オブジェクト指向プログラミングa	C++/C# でオブジェクト指向プログラミング オブジェクト指向システム設計と連動	2②	72		△		○	○		○		
○			オブジェクト指向プログラミングb	C++/C# でオブジェクト指向プログラミング オブジェクト指向システム設計と連動	2③	72		△		○	○		○		
○			組込みシステム制作a	作品製作	2②	36		△		○	○		○		
○			組込みシステム制作b	作品製作	2③	36		△		○	○		○		
○			組込みシステム制作c	作品製作	2④	36		△		○	○		○		
○			スマートモバイルシステム制作a	wiiを使ったモバイルゲームプログラミング	2①	72		△	○		○		○		
○			スマートモバイルシステム制作b	スマートフォンとKinect を使ったモバイルゲーム制作	2②	72		△		○	○		○		
○			スマートモバイルシステム制作c	スマートフォンとAR.Drone を使ったモバイルゲームプログラミング	2③	72		△		○	○		○		
○			スマートモバイルシステム制作d	スマートデバイスコントロールタブレットプログラミング	2①	72		△	○		○		○		
合計			科目		単位時間										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 2)

授業科目等の概要

(工業専門課程モバイル・ロボット科モバイルゲームソフトコース) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			スマートモバイルシステム制作e	タブレットとAR 技術を組み合わせたゲームプログラミング	2④	144		△		○	○		○		
○			卒業研究a	卒業研究テーマ検討、コンセプト設計、基本設計、プロトタイプ制作	2②	36		△		○	○		○		○
○			卒業研究b	卒業研究テーマに基づく作品制作、プロトタイプの見直し	2③	36		△		○	○		○		○
○			卒業研究c	卒業研究完成、発表資料作成、発表練習	2④	36		△		○	○		○		○
○			キャリアデザインⅡa	ホームルーム、進路に応じた個別指導、就職試験対策、面接指導など	2①	18		△	○		○		○		
○			キャリアデザインⅡb	ホームルーム、進路に応じた個別指導、就職試験対策、面接指導など	2②	18		△	○		○		○		
○			キャリアデザインⅡc	ホームルーム、学修指導や進路未定者の重点指導	2③	18		△	○		○		○		
○			キャリアデザインⅡd	ホームルーム、学修指導や進路未定者の重点指導	2④	18		△	○		○		○		
		○	インターンシップ	職場実習	2④			△		○	○				
合計			54 科目			2160 単位時間									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：1,700単位時間履修かつ「卒業研究a」「卒業研究b」「卒業研究c」履修	1学年の学期区分	4期
	1学期の授業期間	9週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。